

令和元年11月11日
(2019年)

家庭数

保護者の皆さまへ

千里みらい夢学園
吹田市立桃山台小学校
校長 羽間 博子

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成31年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語と算数に限られ、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

概要 ・平均正答率は、全国値を上回る良好な結果であった。
・記述式の問題では、全国値を上回る結果であった。

【各領域の成果と課題】

○話すこと・聞く

- ・話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をすることができるかどうかの問題（選択式）では、全国値をやや上回った。
- ・目的に応じて、質問を工夫することができるかどうかの問題（選択式）では、全国値を上回った。
- ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめるかどうかの問題（記述式）では、全国値をやや下回り、課題が残る結果であった。

○書くこと

- ・目的や意図に応じ、調べたことを報告する文章を、図表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように工夫して書くことができるかの問題では、全国値を大きく上回る結果であった。
- ・自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことができるかどうかの問題（記述式）では、全国値を大きく上回るものの、正答率は低く、課題の残る結果であった。

○読むこと

- ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかつ読むことができるかどうかの問題では、選択式も記述式も全国値をやや上回る結果であった。

- ・目的に応じて、本や文章全体から効果的に読むことができるかどうかの問題（選択式）では、正答率は高かったものの、全国値をやや下回る結果であった。

○伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

- ・漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかの問題（記述式）では、どの問題でも全国値を上回る結果であった。
- ・文と文とのつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことができるかどうかの問題（記述式）では、全国値を大きく上回る結果であった。
- ・ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかの問題（選択式）では、正答率は高かったものの、全国値を下回り、課題のある結果であった。

●本校が目指す指導工夫の改善点について（国語）

- ① 問題の要旨をとらえて、短時間で必要な情報を把握し、条件を満たしながら提示された字数で記述することを、日ごろから意識させた授業を行う。
- ② 文の構成や接続語の役割を理解し、条件に合わせて、自分の考えをまとめたり、表現したりする学習場面を増やしていく。

●算数《概要》

概要 ・平均正答率は、全国値を上回る良好な結果であった。

- ・選択式の問題では、全国値を上回る良好な結果であった。
- ・短答式の問題では、全国値を上回る結果であった。
- ・記述式の問題では、全国値を上回る良好な結果であった。

【各領域の成果と課題】

○「数と計算」

- ・棒グラフから、2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍かを読み取ることができるかどうかの問題（短答式）では、全国値とほぼ同じ正答率だった。
- ・加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができるかどうかの問題（短答式）では、全国値を大きく上回る結果であった。
- ・示された減法や除法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、与えられた式の計算に適用することができるかどうかの問題（短答式）では、正答率も高く、全国値をやや上回る結果であった。
- ・示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を、言葉を用いて記述できるかの問題では、全国値を大きく上回ったが、正答率は低く、課題の残る結果だった。
- ・示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができるかどうかの問題では、全国値を上回る結果であった。

○「量と測定」

- ・示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を言葉や数を用いて記述できるかどうかの問題では、全国値を大きく上回ったが、正答率が低く課題の残る結果だった。
- ・二つの棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取り、それらに関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、判断の理由を言葉や数を用いて選択・記述できるかの問題では、全国値を大

大きく上回る結果であった。

- 示された場面の中から、単位量当たりの大きさを基に、所有時間の求め方と答えを言葉や数を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかの問題では、全国値を大きく上回る結果であった。

○「図形」

- 台形について理解しているかどうかの問題では、正答率も高く、全国値をやや上回る結果だった。
- 図形の性質や構成要素に着目し、図形をずらしたり、回したり、裏返したりすることで、ほかの図形を構成することができるかどうかの問題では、全国値を上回る結果だった。

○「数量関係」

- 棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取ることができるかどうかの問題では、正答率は高かったが、全国値を下回り、課題の残る結果だった。
- 示された除法の式の意味を理解しているかどうかの問題では、全国値を大きく上回ったが、正答率は低く、課題の残る結果だった。
- 伴って変わる二つの数量を見いだすことができるかどうかの問題では、正答率も高く、全国値をやや上回る結果だった。

●本校が目指す指導工夫の改善点について（算数）

- ①日々の授業の中で、問題の要旨をとらえ、図や数式、言葉など、決められた条件をもとに、説明させたり、求め方を文章で表したりする機会を増やしていく。
- ②他の児童の考えを自分の意見と比べたり、「なぜそう考えたのか」「どうやって解いたのか」を説明したりする学習場面を増やしていく。
- ③日々の授業の中で既習事項を使いながら、粘り強く自分の力で解こうという態度を育てる。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【学習環境・生活環境について】

- 9割の児童が、朝食を毎日食べているが、全国値と比べるとやや低い。
- 家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をすると答えた児童は全国値とほぼ同じであった。
- 7割以上の児童が「自分には良いところがある」、8割以上の児童が「先生は自分の良いところを認めてくれる」と答えている一方、その割合は全国値より低い。
- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあると答えた児童の割合は非常に高い。
- 学校に行くのは楽しいと答えた児童の割合が高く、全国値より高い。
- 学校のきまりを守っていると答えた児童は8割近くいる一方、全国値より低い。
- いじめはどんなことがあってもいけないことだと考えている児童の割合が非常に高く、全国値より高い。
- 人の役に立つ人間になりたいと答えた児童の割合が非常に高く、全国値を上回った。
- 読書が好きと8割近くの児童が答え、全国値より高いが、1日当たりの読書時間が10分より少ない、または全くしないと答えた児童は3割近くいた。
- 「地域の行事に参加している。」と答えた児童の割合が全国値より低い。
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる児童は8割近くいるが、全国値を下回った。

【教科・学習について】

- 国語の勉強は好き、授業の内容はよく分かると答えた児童が全国値より高い。また、国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、話や文章の組立てを工夫していると答えた児童も全国値より高い。一方で、普段の生活の中で活用することや目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしていると答えた児童は、全国値より低い。
- 算数の勉強は好き、算数の勉強は大切と思うと答えた児童は全国値とほぼ同じである。また、新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思うに当てはまる児童や普段の生活の中で活用できないか考えることは全国値を上回っている。一方、授業の内容はよく分かると答えた児童が全国値と比べて低い。さらに、解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法を考えることも全国値より低い。

3 今後の取り組み

教科に関する結果を踏まえ、各教科での基礎基本の定着を図るとともに、学園として取り組んでいる「学びのスタイル」として、「ねらいを明確にする」「自力解決する時間をとる」「考えたことを交流する」「わかったことを振り返る時間を設定する」ことを各教科で大切にし、日々の授業が主体的・対話的で深い学びにつながるよう授業の工夫や、学ぶ意欲を高める授業づくりの研究をさらに進めてまいります。

また、自主学習ノートの取り組みにより主体的に学ぶ姿勢を育むとともに、様々な体験活動、交流活動の中で地域や社会に目を向けさせながら、児童の自立と豊かな心の育成を図ってまいります。今後とも全教職員で力を合わせ、保護者、地域の方々と協力しながら教育実践に努めていきたいと思っておりますので、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

